

Orange Balloon Festa

オレンジ バルーン フェスタ

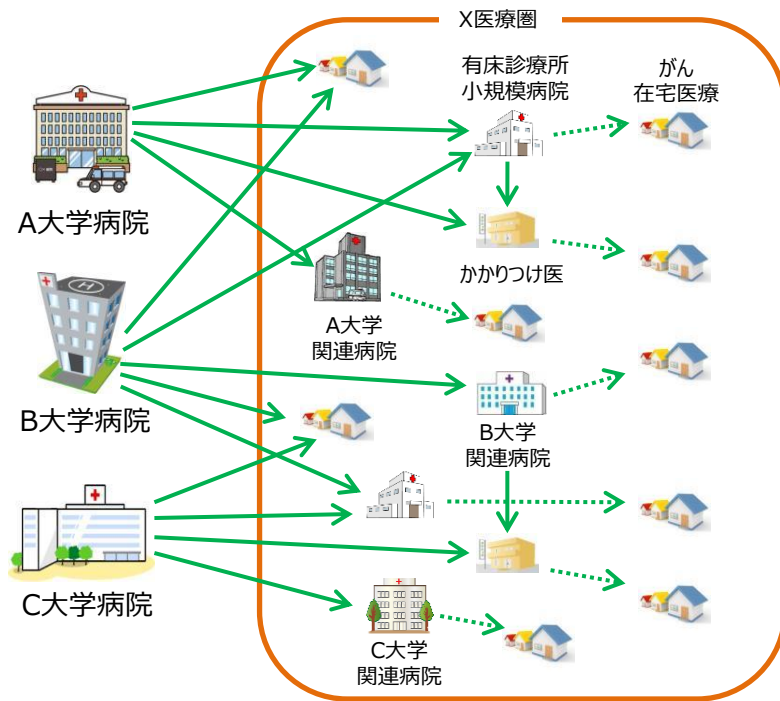
『新宿オレンジバルーンフェスタ2013』開催の経緯と 今後の緩和ケア啓発・地域連携の展望

東京女子医科大学 がんセンター病院部門長
化学療法・緩和ケア科

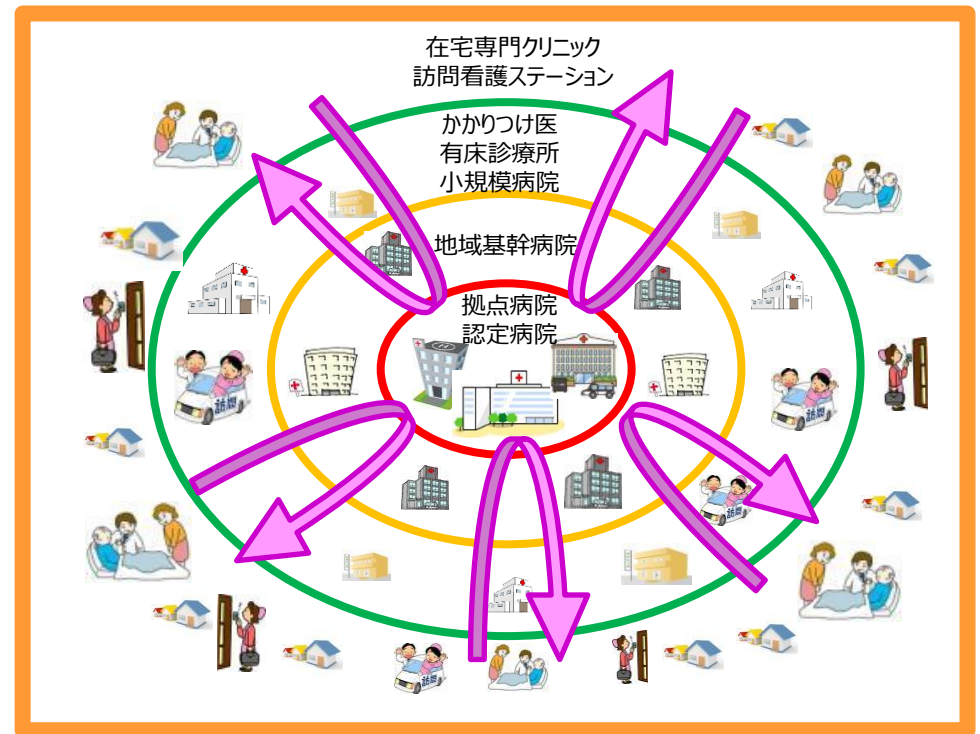
林 和彦

東京都区西部 2 次医療圏の『がんコンソーシアム構想』

従来の地域連携



近未来の地域連携



大学病院からの段階的系列構造



がん地域包括ケアのための組織作りが進行中

東京都緩和ケア連携推進事業

地域拠点病院が中心となり、地域の医療機関や関係団体等の協力を得て、緩和ケア連携推進会議（仮称）を設置し、二次保健医療圏内における研修会の企画・実施や医療従事者に対する相談支援、地域連携の推進に向けた取組等を行う。

- 平成24年度からの3年事業
- 東京都区西部と北多摩南部の二つの2次医療圏にモデルケースとして委託
- 初年度予算350万円

- 行政からのトップダウンの事業
- これまでの拠点病院としての取り組みとの相違が不明瞭
- 連携推進事業のアウトカム評価の困難さ
- 目標設定への懷疑

→→ **参加施設メンバーのモチベーションの低下**

→→→ **OPTIMのプロセス研究結果を反映した対策**

→→→→ **Breakthroughとしてイベント開催を提案**

(2013.1.24)

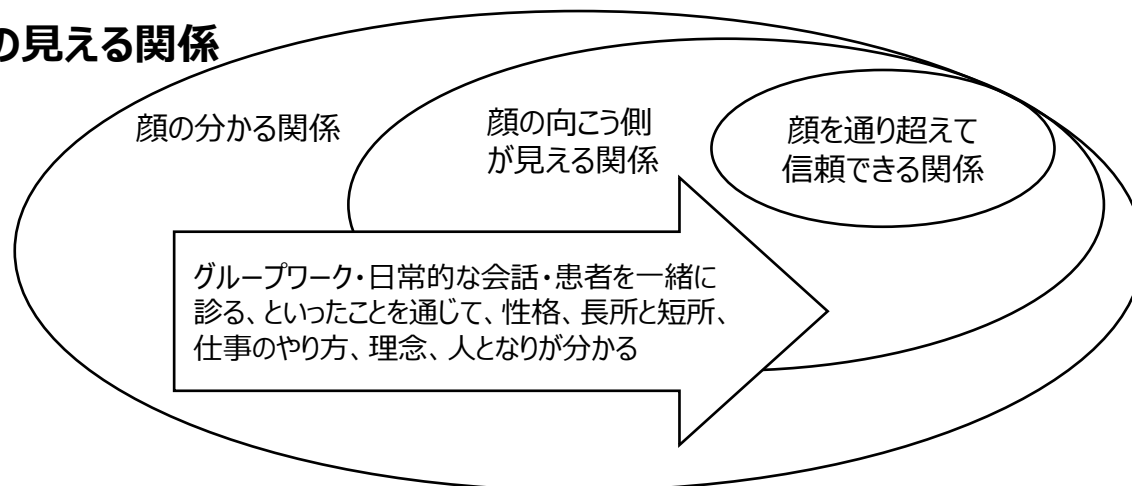
OPTIM『緩和ケア普及のための地域プロジェクト』

プロセス研究（3）インタビュー研究より抜粋

（プロジェクトに参加して）一番大きかったことはなんですか？

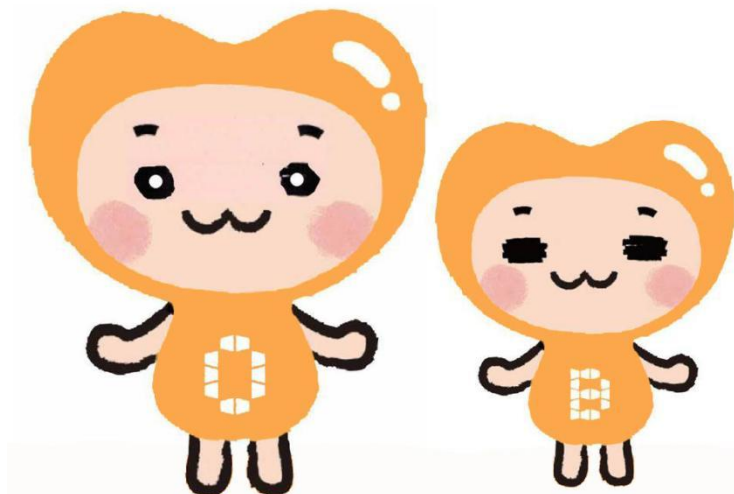
- **ネットワークが増え、連携の重要性を実感した** 62%
- 緩和ケアの知識と技術が向上した 18
- 幅広い体験をすることで自分の役割を見直した 10
- 連携と緩和ケアの知識・技術の両方とも大きかった 4
- 自分の役割に役立つ体験ができた 2
- 患者・家族の満足が得られた 1

顔の見える関係



「あなたは“がん”です」。

そんな診断をされたら、誰に相談しますか？



日時

2013年 6月8日(土) 11:00~17:00

6月9日(日) 11:00~16:00



場所

新宿駅西口広場イベントコーナー

新宿駅(JR・小田急・京王・東京メトロ・都営地下鉄)の
地下ロータリー



主催

東京都区西部緩和ケア連携事業運営会議

共催

東京都／がん性疼痛緩和推進コンソーシアム

Orange Balloon Festa

オレンジ バルーン フェスタ

Orange Balloon Festa

オレンジ バルーン フェスタ

主 目 的 : 都民に対する**緩和ケアの啓発、普及**活動

副次目的 : イベントの運営・企画を通じ、区西部の多施設、多職種のがん医療者間の交流をはかり、**真に「顔の見える関係」を構築**して、より円滑な地域連携につなげる

運営スタッフ : 東京都区西部の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、MSW、ケアマネ等のがん医療者から自薦・他薦で募ったボランティア100人程度

- ◆ 単年度ではなく、継続性のある事業とする。
- ◆ 準備や運営のプロセスを克明に記録したマニュアルを作成する。
- ◆ 写真や映像の画像記録を残す。
- ◆ 企画別チームに分け、全ての過程を多施設、他職種のメンバーで行う。
- ◆ 全てのメンバーが必ず何らかの担当を持つ。

➡ 他の地域やグループからのイベント開催希望があれば、講師派遣を含む、全てのノウハウ提供を行う。

➡ **点（新宿）から出発した地域連携を、面（全国）に繋げる**

Festa Stuff

【大会委員長】 林 和彦（東京女子医科大学 がんセンター病院部門長）

【委員会】

◎企画委員会

委員長： 兼村俊範（東京女子医大 がんセンター緩和ケア室長）

副委員長： 高松 登（中野区薬剤師会副会長）

◎広報委員会

委員長： 伊東俊雅（東京女子医大薬剤部副師長）

副委員長： 宇野真二（中野区医師会理事）

【部会】

◎医師・歯科医師部会

部会長： 川畑正博（東京厚生年金病院緩和ケア内科部長）

副部会長： 近藤邦夫（杉並医師会理事）

副部会長： 田中英一（中野区歯科医師会長）

◎薬剤師会

部会長： 金子 健（慶應大薬剤部）

副部会長： 東 加奈子（東京医大薬剤部）

◎看護師部会

部会長： 秋山正子（白十字訪問看護ステーション統括室長）

副部会長： 大堀洋子（東京女子医大社会支援部師長）

◎地域連携部会

部会長： 藤平輝明（東京医大医療福祉相談室MSW）

副部会長： 富田真紀子（江古田地域包括支援センター）

【主催】 東京都区西部 緩和ケア連携事業運営会議

【共催】 東京都／がん性疼痛緩和推進コンソーシアム

【後援】

日本緩和医療学会 日本緩和医療薬学会 日本在宅医学会 東京内科医会

新宿区 中野区 杉並区

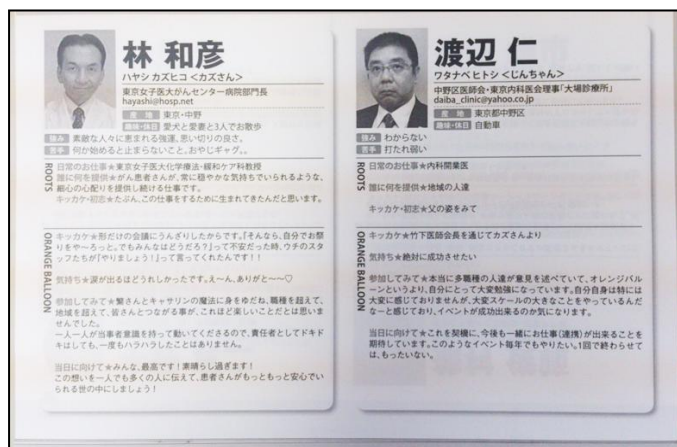
東京都医師会 東京都薬剤師会 東京都病院薬剤師会 東京都看護協会
東京都医療社会事業協会

新宿区医師会 新宿区歯科医師会 新宿区四谷牛込歯科医師会 新宿区薬
剤師会 ケアマネジャーネットワーク新宿連絡会 中野区医師会 中野区歯科医
師会 中野区薬剤師会 中野区介護サービス事業所連絡会介護支援専門員部
会 杉並区医師会 杉並区歯科医師会 杉並区薬剤師会 杉並区居宅介護
支援事業者協議会

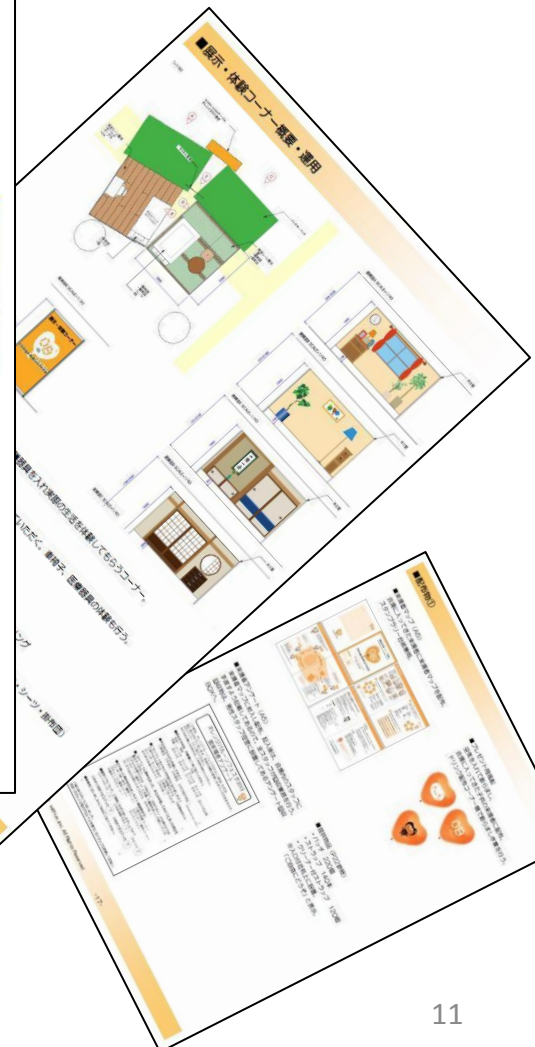




みらいアルバム（連携手帳）



運営マニュアル

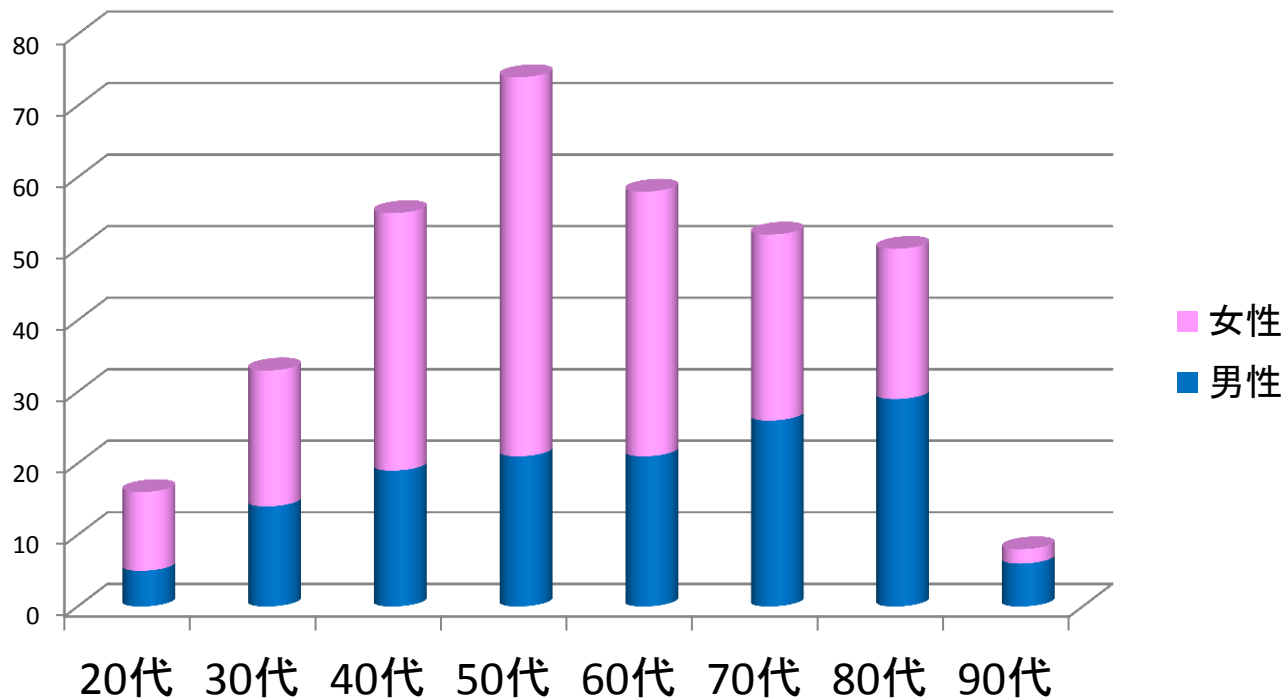


Orange Balloon Festa

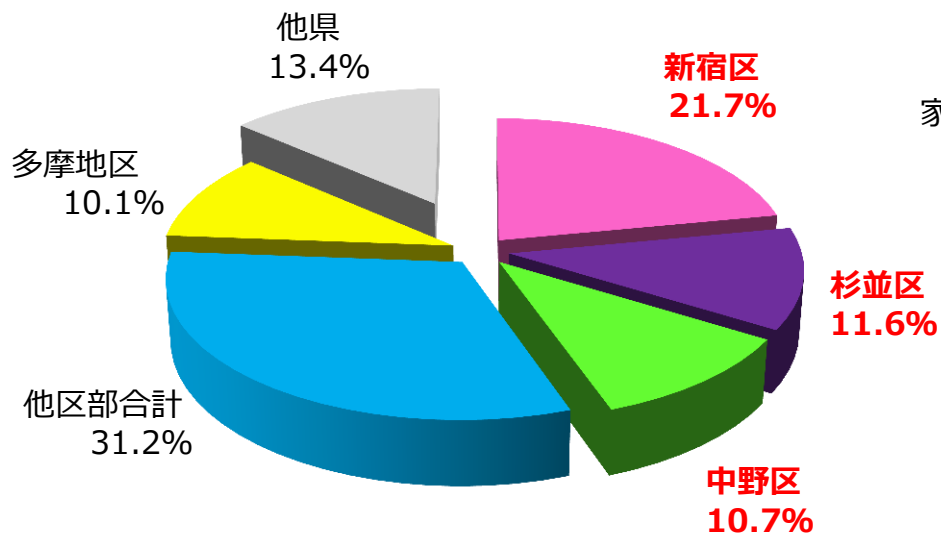
オレンジ バルーン フェスタ

来場者アンケート

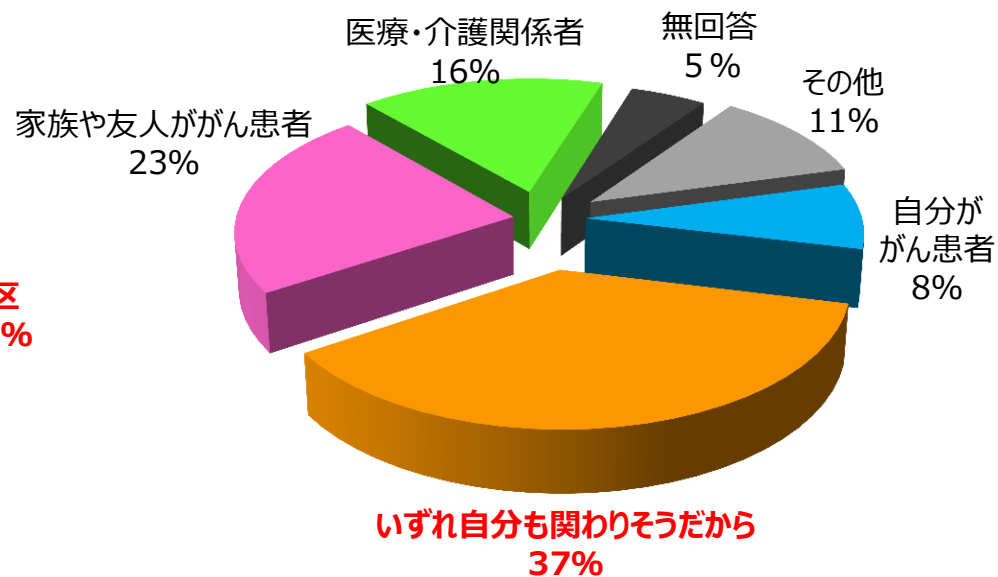
- 来場者にアンケート用紙を配布し回収
- 来場者総数（スタンプラリー参加者数） 2217名
- 回答総数 590件（回収率26.7%）



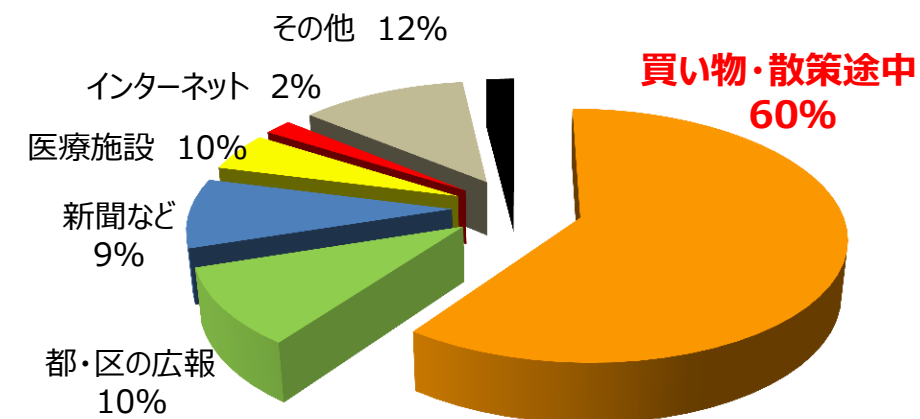
来場者住所



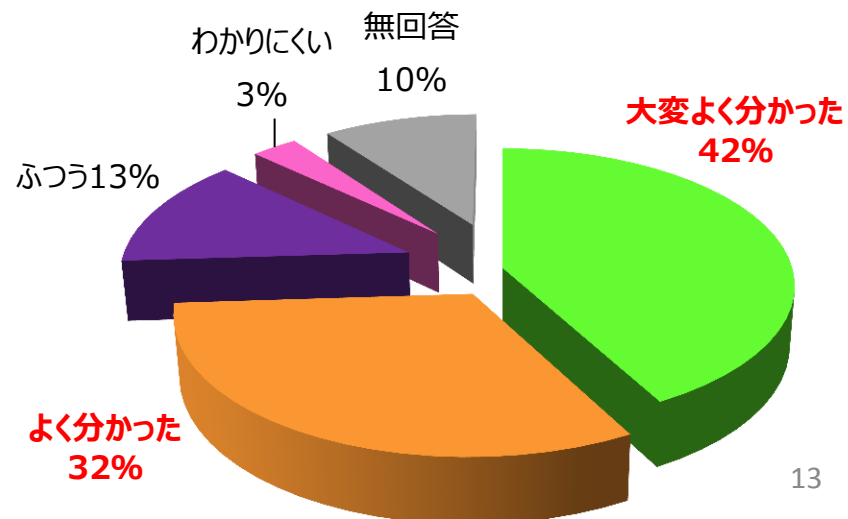
来場理由

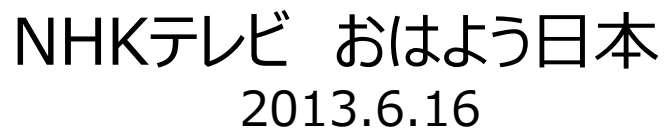


オレンジバルーンフェスタ2013
をどちらでお知りになりましたか？



ご理解いただけましたか？



[illegible]

新宿オレンジバルーン・フェスタ サマリー①（啓発）

- 週末 2 日間で、**約2200人**の市民に個別の緩和ケア啓発を行った。
- 女性では中・壮年者、男性では高齢者を中心に、**幅広い年代の来場者**があった。
- 来場者のうち、**60%は通りすがり**の一般市民であった。
- 来場者のうち、37%が「**いずれ自分の問題になるから**」という理由で訪れた。
- 来場者のうち、**42%が「大変よく分かった」、32%が「よく分かった」と**答えた。
- 来場アンケート提出者のほとんどがイベントを高評価し、**今後の事業継続**を望んだ。
- 新聞**全国版 2 紙**に、緩和ケアや在宅医療の記事と共に大きく取り上げられた。
- NHK**テレビ『おはよう日本』、ラジオ『NHKドキュメント』**に8分間の番組が放映された。



がん医療者側から、市民の生活の場に飛び込んだ事が、
これまでにない、質の高い啓発効果を生んだ

新宿オレンジバローン・フェスタ サマリー②（連携強化）

- 準備期間を通じて、非常に**緊密な連絡や会議が、能動的に行われた**。
- 週末2日間で、**のべ256人のがん医療者**がスタッフとして参加した。
- 医療者以外にも**医学生や看護学生、前期研修医にも臨場感のある実習**を行った。
- イベント前後で、スタッフ間の**連携意識が飛躍的に増大**した。
- 運営**マニュアル、記録動画、スタッフ名簿**（みらいアルバム）を作成した。
- スタッフ**全員がイベントに参加したことに満足**した。
- イベントへの**来年度の参加も希望するというスタッフ**がほとんどだった。
- 新宿以外に、**地元での開催を希望するスタッフ**が現れた。



真の顔の見える連携が構築されるとともに、緩和ケアの啓発を**点から面**へ広げていくためのノウハウが蓄積された。

杉並区医師会理事（個人開業医）

H25.2.5 杉並区医師会館にて、医師会長と共に面談時

『 たまたま医師会での担当が地域福祉部で地域連携、在宅医療の部署なので、会長の命令ですから参加しますが、緩和ケアは何も分かりません。当日の雑務ぐらいなら協力します。』

H25.6.10 イベント終了後のメンバーアルバムへのウェブ入力

『 参加メンバーの方々の熱い思いをひしひしと感じ、いつの間にかオレンジバルーンの虜になっている自分がいました。素晴らしいイベントだったと思うと同時に、今後も続けてイベントに参加させていただき、がんでお困りの患者さん、ご家族のお力になればと思います。』

中野区地域包括支援センター 主任ケアマネ・看護師・社会福祉士

H25.1.24 区西部緩和ケア運営推進会議で、フェスタへの参加意志の確認時

『 新宿の訪問看護師の委員に誘われて運営推進会議のメンバーに加わっただけなので…オレンジバルーン？ え～、どうしよう。。。』

H25.6.10 イベント終了後のメンバーアルバムへの入力

『 オレンジバルーンを通して緩和ケアの奥深さと可能性を感じ、心が震えます。これって Social Innovation!? 夢は見るもの。希望は創るもの。今後はこのネットワークを活かして、次の何かを企みたいです！』

Social Capital（社会関係資本）

● OECDの定義

「グループ内部またはグループ間での協力を容易にする共通の規範や価値観、理解を伴ったネットワーク」

● ソーシャルキャピタルの豊かさ

→ 政治的コミットメントの拡大、子供の教育成果の向上、治安の向上、地域経済の発展、地域住民の健康状態の向上

● パットナム（Making Democracy Work 1993）

ソーシャル・キャピタルは公共財であり、貨幣資本、人的資本や政府と競合せず、相補的な関係にある。

→ ソーシャル・キャピタルは公共政策の代用品ではなく、効果的な公共政策の実施に必要な資本であると同時に、これまでの公共政策の結果でもある。

→ 地域が新たなソーシャル・キャピタルを形成し、蓄積できるような政策の必要性

→ 拠点病院が、文字通り「地域がん診療連携」拠点病院として、
地域主導の地域がん診療連携を醸成することを促すような施策を！